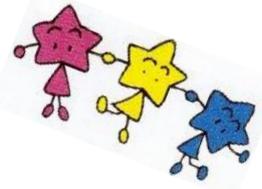


あのね、保育の根 NO.7

～えんちょうのおたより～ 10月



今回は、今年度から変更した行事「プレイデイ」についてお話していきたいと思います。運動会を変更した経緯や今の幼児教育で大事にすべきことを交えて、熱い思いが伝わっていただければ幸いです。

本題に入る前に…。先日、色々な偶然が重なり、『お茶の水女子大学こども園』に施設見学に行きました。同大学にある付属幼稚園は、日本で一番初めの幼稚園で、今でも国立の幼稚園として毎年多くの見学者が来る研究施設でもあります。

そして、今回のこども園の見学に対応していただいた方は宮里暁美先生という、保育業界では超有名人！私は「わあ…。あの有名な宮里先生とラフに会話しているなんて…。」と、心の中でミーハーな浮かれた気持ちになりながら、表面上はいたって冷静に、たくさんお話をしてきました。(笑)

宮里先生との会話の中で、今回のプレイデイのような行事に対する考え方も相談させていただいたところ、とても好意的に捉えていただきました。

終盤には「お稽古のような決められた活動をこなすのではなく、子ども達の主体的なあそびが何より大事！それを国も研究者も重要だと伝えているはずなのに、まだまだ全体でみると少数派…。負けてはいけません。一緒に伝え続けましょう！」と、声を掛けていただき、とても嬉しく感じました。それと同時に、今の私達の保育の考え方もいつかは当たり前になると信じて、進んでいきたいと思いました。

施設見学の内容については、次回以降にまた機会があればお伝えいたします。

*プレイデイの意図

さて、本題へ。今年の年間行事予定で「プレイデイ」という行事を見た時に、「どんなことをやるの？」「運動会は？」と思われた方もいらっしゃると思います。そして、昨年度の運動会にご参加いただいた方は感じていただけるかと思いますが、昨年度から運動会の内容を大きく変更させていただきました。

簡単に言うと、「他の人と比べて競い合う内容ではなく、個々を尊重して認め合える内容」へと見直すことにしました。

運動会というどうしても意識の中に「競技」「競い合う」といったことが想像されやすく、リレーやかけっこ等についても一人ひとりの運動能力に注目が集まりやすい競技でもあります。

幼児期の発達段階を踏まえると、大勢の保護者の方々が見ているという格段に緊張する状況の中で、一人ひとりの運動能力に注目が集まりやすい競技を取り入れるのではなく、『子ども達一人ひとりが運動することを心から楽しい！と思える行事』にすることを一番大切にすることにしました。

そして昨年度の経験から、私達が子どもの頃からイメージする「運動会」の内容とは異なっていることをより明確にする方が良いと思い、今年度より『親子で一緒に運動を楽しむ日』⇒「プレイデイ」という名前にすることにしました。

*時代の変化に対応する園でありたい

現在の幼児教育では、子ども達が興味や関心を持って自発的・能動的に色々な環境と関わって生活を送ることが重要視されております。それに伴い、運動会や発表会、演奏会等、従来の大々的に、そして一斉に行うやり方を見直すなど、小学校も含めて行事の実施方法は年々変わってきております。

もちろん『友達と一緒に成功させる事』や『友達と一緒に頑張っている姿を見せる』ということも、これから社会で生きていくために必要な経験であると私も思います。ただ幼児期の発達段階では、その前段階としてまず色々な環境に興味や関心を持ち、自ら『もっと知りたい！』『もっとできるようになりたい！』と思う、この経験の積み重ねがとても大切であると私達は考えています。

そして…この経験の積み重ねのきっかけを作ることや、普段の生活の延長線上にあるものが“行事”であれば良いなと思っております。

『成功させる』『頑張っている姿を見せる』ための努力ができるようになるためには、幼児期でのこの経験の積み重ねが大切なようです。

悩ましいですが…。私達おとなが幼少期に経験してきたことが間違いであったと思っているわけではありません。しかしながら保育の研究は日々進んでいて、時代に応じて科学的根拠を基に変化していかなければ子ども達のためにならないと私は思っております。目に見える物ではないので成長が実感しづらいことは重々承知しておりますが、私達の思いにご理解をいただければ幸いです。